

工 太 同窓会報

第 1 2 号

昭和57年11月20日
群馬県立 同窓会
太田工業高等学校

同窓会員の皆さまへ

同窓会長 林 進一

同窓会員の皆様におかれましては、その後も益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

我が母校も創立二十周年記念として、立派な音楽室と視聴覚教室が完成し、式典も盛大に終了しました。同窓会は、第十八回卒業生二百二十八名を迎え、会員数は、五千名を越えました。

昭和五十九年三月、第二十回卒業生を迎え、同窓会も二十周年となります。そして、会員数は五千五百余名となります。同窓会々々名簿は、会員相互の親睦と友情を深め、会の発展の基礎となる重要な役割をはたしております。

同窓会々々名簿は、昭和四十三年に第一版を、昭和五十二年に第二版を発行しています。同窓会発足二十周年を期して、第三版を発行したいと思います。昭和五十八年度は、同窓会々々名簿の発行準備

作業と名簿の整理を行なってきたと思います。会員の皆さま特に、各卒業年度の幹事の方々は、多大なる御協力をお願いしなくてはなりません。その節はどうぞ、よろしく願います。

次に、同窓会支部結成についてお願いです。支部は会社単位、あるいは地域単位で良いのです。

支部の会員数と代表者名を本部「学校」までご連絡下さい。代表者は、常駐幹事になっていただき本部との連絡を密にしていきたいと思えます。

同窓会員の皆さまには、今後共同窓会及び母校発展のため、ご指導ご協力をお願いします。

同窓会員の益々の発展とご健康を心よりお祈り申し上げます。

いあいさつ

校長 狩野 徳司

先日、ある会合で本校初代校長嶋岡平蔵先生にお会いすることが

できました。そして、矍鑠とした先生から親しく本校設立当時の様子を伺いました。

第一期生の諸君と金山の仮校舎で学んだこと、草茫茫の校庭を職員・生徒みんなで整理したこと、

一（いち）からはじめた実習工場での作業、三角屋根の体育館での球技大会。どの話も皆心暖ることばかりでした。

本校の設立が決定し、第一期生の諸兄が入学したのが昭和三十七年四月なので、今年で教えて二十一年目となります。

この四月、本校に着任して以来、在校生の諸君と太田工業高等学校の学校生活を共にしてきました。

学業に、生徒会活動に、諸君が懸命に打ち込んでいる姿を見て、たいへん心強く思っています。

嶋岡先生が建学の精神とした、「真面目で明るく、心身健全な工業人の育成」という願いは、今日でも脈々と本校の職員・生徒の皆さんに受け継がれていることを知りました。

私は、自信をもって先生に、「嶋岡精神はいまでも健在です」と申しあげたところ、先生はたいへん喜んでおられました。

併しながら、本校にとって、この二十一年間は決して平凡な期間

ではありませんでした。

本校設立の昭和三十七年当時は国を挙げての高度成長経済の時代でした。技術革新による工業界の発展はたいへんなものでした。

しかし、昭和四十八年の第一次オイルショックを契機として、日本経済は低迷を続け、次第に今日の低成長時代に入ってしまったのはご存知の通りです。

本校の卒業生諸兄たちも、この激しい時代の波に揉まれながら、立派に社会に巣立っております。

過日も、同窓会の役員の人たちと会合を持ちましたが、その席で先輩諸兄の消息をいろいろ伺いました。既に、開校当時の諸兄が前後して企業の中堅幹部として重責を負っているとのこと、その奮闘には心より敬服いたします。

私は、この若々しい、活力に満ちた皆さんによって支えられる同窓会こそ本校の宝であると信じて疑いません。

おわりに、会員諸兄の益々のご発展を祈念し、本校就任のごあいさつといたします。

在職三か年を顧みて

前校長 森村 宏

本校には昭和五十四年度より三年間在職させていたゞぎましたが、その間、同窓会の林会長さんをはじめ役員の方々には格別の御協力を賜わり誠にありがとうございました。お陰をもちまして無事、校長の重任を果たすことが出来ました。

いま考えますと三年間は夢のように過ぎ去った感があります。その間には様々な出来ごとがありました。そのどれにも真剣に取り組んだ故でもありません。その出来事が皆なつかしく、すがすがしい思い出となって甦って参ります。これも偏りに全校教職員、生徒、PTA、同窓会、学校後援会の皆さんの御尽力によるものと深く感謝を申しあげます。

私にとって何よりも幸運であったのは在職中に本校の創立二十周年にめぐり逢うことが出来たことでした。更に本校にとって多年の念願であった音楽室、視聴覚室、図書館の竣工をみて、創立二十周年と併せてこれら施設・設備の落成記念式典を盛大に挙行できましたことは同窓の皆さんの記憶に新

たなごとと存じます。

また昭和五十五年度春季関東高校野球大会県予選会では大工施鳳を捲きおこし、県代表として関東大会に六年振りに出場したことも爽やかな出来ごとでした。

残念であった事は定時制課程の廃止でした。高校進学率の上昇により中卒就職者の少ない現状では止むを得ない面もありますが、県下第一の工業都市太田で、また本校の定時制は県内でも最優秀校であっただけにその廃止は断腸の思いでした。定時制課程十六年間で三百余名の卒業生に対して誠に相すまぬことをしと思っております。

このように僅か三年の間だけでも喜びも悲しみも数々ありましたが、私は太田工業高校の良い時期に校長をさせていただいた幸運児であったと思っております。

どうぞ校長三か年の関係だけでなく、今後本校関係者の一人として末永くお仲間に加えていただくようお願いを申しあげます。

県立太田工業高校百年の大計を考えますときに、本校は名実ともに県内第一の工業高校に隆々発展し、東毛工業地域大躍進の核とならなければならぬと確信するものです。

本校ならびに同窓会の一層の御隆昌を心から祈念してやみません。

ごあいさつ

教頭 栗野 昭

同窓会の皆様には、ますます御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平素、母校発展のため御協力をいただき深く敬意と感謝を申し上げます。

昨年は無事、創立二十周年の記念式典ならびに記念祭を挙行することが出来たことは、同窓会をはじめ関係諸団体の皆様方の御協力のたまものと感謝いたしております。

本校も本年三月で十八回の卒業生を送り出し、同窓会会員は五〇八六名に達し地元産業はもとより全国各地の産業に従事し活躍されていますことは誠によろこびにたえない次第でございます。

さて、私こと

昨年十二月に酒井先生の高崎市立女子高等学校校頭に栄転されその後任として教頭に任命されました。

本校に二十年にわたって勤め教員の勤務年数の大半をこの学校で過ごさせていただきましたと、私自身

もこの学校が母校のような気持ちでまいります。

しかしいまさらながら責任の重さを痛感いたしています。

微力ではございますが、全力をつくしてその任にあたる所存でございます。

現代は技術革新による合理化の時代といわれています。

低成長期に入り、まさに「量から質へ」の変革の時機になっていきます。

このような時代を生きてゆくためには、常に創造性豊かな自己の能力を開発することが必要でありそれには人間の向上を伴わなければ人の機械化・部品化へと進んでいくと考えられます。

このように考えますと現代が「物から心へ」の時代といわれるのがわかる気がいたします。

人間尊重の立場に立った知性と徳性をもつようたゆまない努力こそ必要であると考えられます。

この意味において最近、工業高校が見直されてきたといわれています。

しかしこれからが工業高校の真価を問われる正念場であると思っております。

「子供は親の背を見て育つ」といわれています。

先輩諸兄が毎日こつこつと仕事に精をだす姿こそ後輩へのよき模範となると考えています。同窓会の皆様の今後ますますの御健康と御活躍を祈念申し上げます。御挨拶とします。

社会の一員として

東京電力(株)館林営業所配電課
一期 E 大手 隆正

太田工業を卒業して、十八年目を向え社会の一員として頑張っております。四十年の春に東京電力に入社しすでに十八年も過ぎたのかと自分の年令をうたがいたくないります。その間、技術の革新もめざましく、送電線は二七万ボルトから五十万ボルトに昇圧し一〇〇万ボルトへと発展しました。

職場においても、情報化時代というところでコンピュータの導入による省力化や仕事の流れの変化などと、技術の変化に自分自身が対応して行くのがやっとなんと言いうところでは、現在の私の仕事は、管内の自家用需要家約五〇〇軒の新設・増設や保守・保安の指導が主な仕事です。たしか在学時代に変電所保守という実習があったと思いますが、それとは同じです。最近、太田工業の同窓生の方が

電気主任技術者として活躍している職場を訪問することがあります。話題の中で在学時代を思い出す事もしばしばあります。太田工業の卒業生が社会の中で技術者として活躍している姿を見る時私も頑張らなくてはと思います。時代にとり残られぬ様に社会構成員の一員として、又技術者の一人としてこれからも頑張っていきたいと思えます。乱筆ながら失礼致します。

母校を離れて

一期生 C B 星野 薫

母校を離れて、いつの間にか、十七年にもなりました。私は地元企業に残ったので毎日の勤めは母校の横のバイパスを利用しての通勤です。日増しに変わる母校を見、そして、そこへ通う学生の姿を見、自分達が通学していた時の事を思い出す日もたびたびでした。すでに私達一期生の者は社会の中で一人前の仕事をし、家庭にあっては夫となり父となつて活躍している事だと考えます。

私の職場にも三十名ほどの卒業生がきております。しかし、私達

には常に先輩はおられません。そんな事から良き先輩になろうとこの十七年間ガンバッテきました。私は現在、会社の仕事と組合の仕事(オーディオ支部委員長)と企業の中にあつて二つの大きな仕事をかかえ懸命にその仕事の消化に努力をしてくれています。

職場は、ここに来て内・外的に不況産業に落ち入ってしまった音響商品の生産ですが私が入社した頃はまだ開発段階であり、当時は大会社が生産するような品物でない「おもちゃ」だと云われた商品でした。しかし数年後には日本国内だけでも二五〇社の企業が手を出す商品にもなり、今では一人二〜三台は持つ様な市場のリーダーの商品にも育ったわけです。時代の波にのつた商品(カセットテープレコーダー)をずっと生産してきたはこりが私の身体にはありません。今年の夏休みに入る直前に近況を書いてほしいと云われ筆をとったわけですが遠くへ出ていった仲間の姿が想いだされ仲々うまく書く事が出来ません。今年も母校も開校二十周年の年、何か催し物があつたのかな、と気にもなつた。私の夏休み中にはTVで毎日甲子園の熱戦が繰りひろげられて

いる野球一つに情熱をかけ動く事

の出来るあの頃がなつかしい。しかし私は自分の気持をいつも二十代の中ばに常においている。頭の中が年をとってはいけない、自分の考え方一つで若くしていられるのだと心がけて毎日を暮らしています。外国にも二度ほど出かけてきました。日本以外の国を知り自分の人生に大きなプラスになりました。又、近いうちに出かけてみます。この社会に出て十七年いゝんな出来事にぶつかりました。しかしひとつひとつ解決をし頑張ってきました。これからも今迄以上に発生してくる問題には前向きにぶつかり処理をしていく覚悟をしています。

同窓生の皆さん、生活する所は違つても地に足をふんばり頑張つて下さい。

「マラソン」

四期生 M B 橋本 賢一

生まれつきのスポーツ音痴ともいいますか、小学生の時から体育がが手でした。しかし、性格の現れでしようか、長距離走だけは先天的？に好きでした。

そのぐらいいですから、中学・高校の校内マラソン大会は全てマジ

メに走り、スタートは遅くとも一定のペースで走っていれば自然と順位が上ってくる、その快感が何とも気持ちの良いものでした。

中学・高校の六年間、毎朝の新開配達、中学の三年間は夕刊も配り、毎日足をフルに使い一汗かいていたこと。そして高校でハンドボール部に入るもコートでの練習よりロードワークが好きでした。

その積み重ねのお陰でしょうが、高三の時、校内陸上の三千メートルと校内マラソンで一位になった事。それはテストで百点を取る事よりも、うれしさであふれました。

電車運転士にあこがれて東武鉄道に入社したその年の秋、社内駅伝大会の選手選考会があり、若い所出てくれないかと声をかけられたのがきっかけで、再び走る事が私にめぐり合ってきました。

それ以来十四年、多くの大会に出、又、出させてもらいました。レベリックには雲泥の差がありました。旭化成、鐘紡、神戸精鋼、東洋工業、その他一流チームの選手と走れた経験が、ものすごい励みとなりました。そして、夢の世界だったフルマラソン(四二・一九五キロ)にも今年で三回出場。しかし、タイムは二時間五〇分前後と、ま

まだまだ練習不足を思い知らされるばかり。この年令でまだタイムへの欲があるのですね。

今、こうして走れる自分が幸せです。それが生きる喜び励みとなり、目標ができます、そして夢となつて広がります。大会や行事を通しての、いろんな方とのめぐり合い、老若男女、様々の職業の方と知り合える、そんな良さもいいですね。

知人に、四十才過ぎて走り始めた方も数人いて、中にはフルマラソンを何度も完走するまでになった方もいます。私もそろそろレジャーとしては年令的に限界、のちのちランナーからジョガーへと年令に応じた楽しいランニング生活を送れるよう、これからも日々の精進を心がけてゆきたいと思うこのごろです。

何事にもチャレンジ

アキレス(脚)

八期E 安塚良二

私も卒業して十年になりますが本当に月日のたつのは早い様な感じがします。さて私も社会人となつて十年、会社でも一人前と自負しています。その事は、社会人になつたら自分自身から積極的に、何事にもチャレンジをして経験を

重ねて行く事だと思いました。私の場合、サッカー部に入部をして活動を行ないました。

学生時代には経験のない私でした。何事にもチャレンジの精神で一からやりました。その結果色々なチームプレーの中に会社内に於いて重要な人間関係や、チームワークやコミュニケーションなどの面で非常に勉強になりました。

また同時にサッカーの審判員になろうと思ひルールや実技の勉強を行なった結果、三級公認審判員に成る事が出来ました。

休日には社会人の県リーグや、少年サッカーの審判員として頑張っています。これらの体験によって数多くの友人が出来た事や、色々な話をしたりして非常に自分の視野が広くなり、生活面でも非常にプラスになりました。

どんな事でも目標を持ってその目標に立ち向かっている時は毎日の生活に張りが出てきて充実した日々が続くと思ひます。

学生時代は与えられた物を遣るだけといった感じでしたが、社会人になると自分自身の力を発揮出来るように自分自身を磨いて趣味や特技が生かせる様な毎日が暮らせる様に、何事にもチャレンジして失敗を恐れずに、学校での

楽しかった事や苦しかった事を、思い出して太田工業卒業生として立派な社会人になる事が学校や社会の繁栄に継ながる事だと思ひます。

保健室からのぞいた 本校生の健康 状況の移り変り

新井幸子

一、はじめに
卒業生の皆様お元気ないろいろな方面でご活躍なさっていらっしゃる事と思ひます。

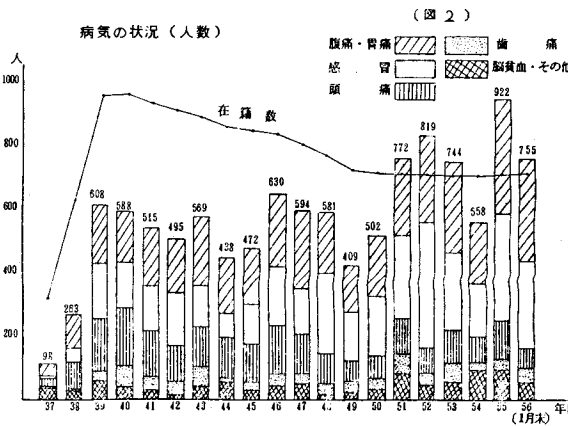
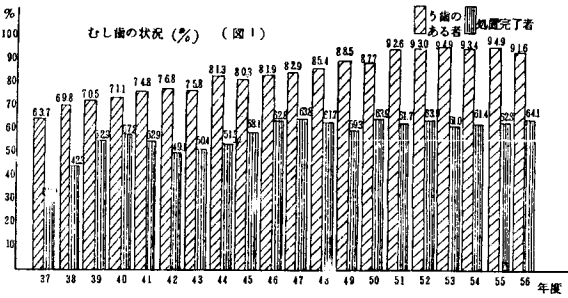
本校も開校してから、早いもので二十年間が過ぎました。開校当時は、国道一二二号は舗装されておらず、自動車は砂煙をあげてわずかに走っていた程度でした。

学校周辺も殆んど住宅はなく、数キロメートル離れていることから、小泉線の二両連結の電車がとぎたま通過するのがみえるなど、たいへんのどかな環境に恵まれておりました。しかし、現在は周辺の環境も大分変りました。この二十年間、社会の流れもめまぐるしく変貌しております。

保健室から覗いた本校生徒諸君

身長・体重の推移 (平均値) (表1)

学年	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
身長 (cm)	1618	1625	1632	1631	1635	1638	1645	1642	1650	1654	1659	1659	1659	1662	1661	1666	1669	1673	1674	167.4
体重 (kg)	51.6	50.3	51.2	51.7	51.8	53.8	52.4	52.0	52.7	52.5	54.6	52.3	54.2	54.0	56.1	55.4	56.4	52.2	56.7	51.0



の健康状況の流れも変わっており、すので一端を述べてみたいと思ひます。在校当時を思い出しながら、又お父さまになられた方は、お子様のご参考にしていただければ幸いです。

二、身長・体重の推移
表1は、学年別の身長・体重の二十年間の推移ですが、三十七年の一年生と五十六年の一年生を比較してみると、身長で五・六cm、体重で五・四kg増加しております。体位は、年々向上の一途をたどつ

ております。

三、むし歯の状況
図1は、むし歯のある者と、処置完了者の推移の状況を百分率で表したものです。むし歯のある人は、年々増加して、二十年前は六〇%台であったものが、五十一年度からは、九〇%台の所有率を示しております。

歯みがき、うがいの励行は勿論ですが、過剰な糖分摂取など栄養のバランスの点も充分考えなければなりません。健康な歯で食物を

良く噛み砕くということは、健康であることの第一歩でもあります。

四、病気の状況
図2は、保健室にある病気の記録からの統計ですが、体の異常を訴えて保健室に来る生徒の件数が、三十七年から五十年までは、在籍数を下回って増加しましたが、五十年からは急激に増加して、在籍数を上回っております。延人数な上からは、在校生が一年間に一回以上も、体の異常を訴えて保健室

で何らかの処置を受けているということとなります。この数字は驚くべきことだと思ひますが、図1のように体位は年々向上しているのに、これに反して、なぜ、体の異常を訴える生徒は増加しているのでしょうか。これは、不規則な日常生活、食生活の問題、学校不適応、社会の中の歪められた青少年等の複雑な条件が絡みあつていのではないかと思ひます。

健康とは、単に身体的に異常がないということだけではなく、精神的、社会的にも完全に良好な状態でないこと、本当の健康とはいえない訳です。

五、おわりに
これは「心と体の健康を願つて」(本校保健室二十年間のあゆみ)の小冊子より一部を抜粋したものです。二十年間の保健統計の流れをみると、社会の変遷と一致する点があると思ひます。一つの学校という小さな社会でも、世の中の流れに揺り動かされていきますので良い社会、良い環境を作らなければと痛感しております。

最後に、今年三月末で、家庭の事情により退職いたしました。長い間、たいへんお世話になりましたこと感謝申し上げます。

昭和56年度卒業生(第18回)就職状況

会社名	M	E	C	会社名	M	E	C	会社名	M	E	C
(県内事業所)				雪印乳業	1	1		(県外事業所)			
富士重工	4	1	5	清紡績館	1	1	2	東京田辺		1	1
荻原鉄工	3	2	1	三吉国池	1	1		東アウキ	1	1	1
岡本理研	1		2	富国池電	1	1	1	京スレ			1
三菱電シ		1		鴻池電	1	2		ハアキ			1
三東電シ		1	1	日本洋ア	1	2	2	京三洋			1
沢藤電発	3	1	1	明日星電	1	1		本林製			1
日新瀉鉄	2	1	1	小野電	1	1	1	本ロメ			1
大明隅電	3	1	1	両毛電		1	1	本プテ			1
フジャオー		2		日本電		1	1	立メ化			1
群馬リコ	1		2	日軽ア		1	1	日産デ	1	2	1
太田消防		1	2	住沖セイ	2	1		日産デ	2	1	2
第一鍛冶		1	1	白クク		1	2	本立メ	1		1
金井車輪	1		1	ク田製	1	1		本立メ	1		1
今井田精		1		々々電	1	1	1	本立メ	1		1
新ヤマト			1	東京電	1	1	1	本立メ	1		1
東京三洋	10	15	6	トヨ馬	1	1	1	本立メ	1		1
宮津製	3		1	群ヨ馬	1	1		本立メ	1		1
日本の素		1	1	トヨ馬	1	1		本立メ	1		1
味のマ			1	群ヨ馬	1	1	1	本立メ	1		1
凸版印刷	1	1	1	前橋			1	本立メ	2	1	1
凸版ライ			4	群マ	1	1		本立メ	1		1
京版ライ			1	マツ	1	1		本立メ	1		1
サン			1	マツ	1	1		本立メ	1		1
富田電	1		1	太田	1	1	1	本立メ	1		1

同窓会々員数

S57.3.1現在

卒業回数	卒業年月日	合計
1	昭40.3.12	302
2	41.3.9	315
3	42.3.9	306
4	43.3.9	303
5	44.3.6	322
6	45.3.6	321
7	46.3.5	319
8	47.3.1	311
9	48.3.1	306
10	49.3.1	289
11	50.3.1	273
12	51.3.1	257
13	52.3.1	261
14	53.3.1	260
15	54.3.1	245
16	55.3.1	227
17	56.3.2	241
18	57.3.1	228
合計		5,086

■ 学校だより

職員移動 昭和五十七年四月
 森村 宏先生 (校長) 伊勢工高校長へ
 酒井静雄先生 (教頭) 高崎市女教頭へ
 S56・12 高崎市女教頭へ
 高木貞雄先生 (理科) 大間々高へ
 塩田直衛先生 (英語) 西邑築高へ
 田中健司先生 (電気) 高崎工高へ
 長谷川功二先生 (電気) 桐生工高へ
 大塚 修先生 (事務) 桐生西高へ
 新井幸子先生 (養護) 退職

次の先生方は新任の先生です。
 狩野徳司先生 (校長) 伊勢工より
 長浜清光先生 (電気) 桐生工より
 田島美代子先生 (養護) 県教委より
 斉藤勝三先生 (電気) 桐生工より
 船山 修先生 (理科) 館女高より
 徳間樹久先生 (英語) 大泉高より
 生方孝佳先生 (工化) 新任
 谷 一郎先生 (保体) 新任
 石坂哲男先生 (事務) 新任

編集後記

木枯らしの吹く季節となりましたが、会員の皆様方がお過してでしょうか。大変遅くなりましたが、皆様の御協力により会報12号を発行することができました。なお原稿をいただいた方々は紙面をお借りして御礼申し上げます。又個人的な考え方はありますが役員をしていて最近感じている事を率直に申し述べさせていただきます。会員の皆様方は同窓会組織を必要と感じていないのではありません。(各種会議等の出席率) 私自身も含めてはありますが同窓会の組織運営が一人立ちできていないのではないか。存在価値のない組織は有名無実に等しい、各役員が反省をして価値のある組織にしていきたいと思っております。(大関記) 以上